

## 編集後記

### 編集長(ダン シロウ)

ちょっと久しぶりに新連載が始まった。MSW(医療ソーシャルワーカー)さんの連載は初めてだ。いろんな現場の、様々な仕事を、先ず知るところから。これが対マガの使命だ。

8月末から9月の中旬、先ず恒例の東日本家族応援プロジェクト in むつ、九年目を実施。その後、名古屋市講演と五年目になる山形 WS をやって、9日からウクライナ共和国に出かける。チェルノブイリ原発事故の跡(今も現役の事故後地)をダーク・ツーリズム訪問である。

なので、この編集や発行の詰めの作業日がタイトである。場合によっては、今回は少々発行が遅れるかもと、現時点(9/6)で案じている。

長く継続していくというのは、既定スケジュールに後から飛び込んでくるモノをかいぐりながら、恒常性を確保することである。

誰に強制されたわけでもない、自分に課した約束を果たしているところに、一番いい自己信頼感や安定感は生まれる。

なにもしないで自尊感情なんて云っているのは、私にはピンとこない。人は自分の行動からのフィードバックで、なにがしかの感覚を蓄積していくモノだろう。それは勝利とか、成果とは種類の異なる充足感だ。

### 編集員(チバ アキオ)

高校生の息子が文化祭の打ち上げで、焼肉に行くという。それをクラスメイトと決めているようだった。どう出欠をとるかという、ライングループを使っていた。クラスの40人のうち39人が、クラスのライングループに入っている。そして、ラインの投票機能「投票箱」をうまく使っている。投票箱は、『焼肉に行くか？行かないか？』と、『どの店がいいか？』を設置して投票をする。選択肢は、後からでも追加できるそう。ラインでは、誰が誰かは、わ

からないこともあるそう。アカウント名に、ニックネーム的なものを使っている人がほとんどなので、本人とラインアカウントが正確に一致しないこともあるようだ。

こんなことをきいていると『ソーシャルワークはプロセスである』という言葉が懐かしくもあり、古めかしくも感じる。昔なら、文化祭の打ち上げに関して、電話や、立ち話や授業中にまわす手紙等で決めていたことだろう。複雑なプロセスがなくてもできることも増え、うまくいく方法が増えた、言い方を変えるとうまくいく方法が多様になったというのも事実。

このマガジンもそう。昔なら、コストも、労力も大きい。それが今はこうしたweb出版ができています。昔が良かったとは単純にはならない。時代のテクノロジーにあわせたマイナーチェンジ。それができるか？できないか？何を隠そうこの『対人援助学マガジン』も創刊以来マイナーチェンジを続けている。気付いている人はいないかもしれないけど…。それもやっぱり重要なプロセスなのだ。『ソーシャルワークはプロセスである』。なかなか噛み応えのある言葉である。

### 編集員(オオタニ タカシ)

出版不況の話を耳にするようになって久しい。しかしながら、書店には無数と思えるほどの書籍が並び、専門書からゴシップ誌まで、内容も多種多様である。つまり、コンテンツが枯渇しているわけではない。むしろグローバル化、情報化社会の中で、情報はあふれかえっている。一方で、情報が社会に対して与える影響の大きさは、情報の質や正確さ、正当性とはあまり関係がない。大統領のツイートが世界の動向を左右したり、フェイクニュースが世論を動かしたりもする。そして、ニュースがフェイクであることが明らかになったとしても、世の中が受けた影響はあまり変わらない。ただ、そのニュースに影響されていた人が、関心を失うだけである。SNS や youtube などの社会インフラの整備により、個人の情報発信も容易となった。しかしながら、一部の炎上騒動から、「安易な発信は慎むように…」というあまり意味のない自己防衛だけが求められたりもする。その結果、炎上を恐れない、むしろ炎

上を糧とするタイプの者だけが、大きな声で持論を展開し続けられるという状況も生じている。そして、どんな暴論であっても、繰り返し触れるうち、人は慣れていくのだと思う。それが、慣らされてはいけないものだとしても、である。

このような社会状況に悲嘆するだけでなく、何かをしておくとしたら、それは一人一人が自分の言葉を失わないことだと思う。それは、世論に対して Yes/No を表明することだけを意味するのではない。自分自身がみたものや体験したことを意味あるものとして発信することであり、ひいては、自分がどうありたいか、どういう社会であってほしいかという、個人としての言葉をもつことである。この言葉が、社会に受け入れられるか、どう評価されるか、どんな影響力を持つのが重要なのではない。一人一人が自分の言葉を持つことが、結果として社会を形作り、社会の歪みを緩和することもあるのだと思うのである。そして、対人援助学マガジンはそんな言葉の集合体であると思っている。

## ■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は  
[danufufu@osk.3web.ne.jp](mailto:danufufu@osk.3web.ne.jp)

### マガジン編集部

604-0933 京都市中京区山本町438  
ランプラス二条御幸町402 仕事場D・A・N

## 対人援助学マガジン

### 通巻38号

第10巻 第2号

2019年9月15日発行

<http://humanservices.jp/>

第39号は2019年12月15日  
発刊の予定です。

原稿締切2019年11月25日！

## 執筆者募集

10年目を迎えたマガジン。新たな書き手を求めています。

新たなジャンルからの、書き手の登場に期待します。

自身の生活スケジュールに本誌「連載」を持ち、継続的に、自分の専門分野の今の記録を発信したいという方からのエントリーを待っています。

連載誌です。必要な回数を、書いていただけるよう設定します。ご希望の方、編集長まで執筆企画をお知らせ下さい。

執筆資格は学会員であること。非会員で書いていただく事になった方には、対人援助学会への入会をお願いします。

## 対人援助学会事務局

540-0021

大阪市中央区大手通2-4-1

リファレンス内

TEL&FAX学会専用 06-6910-0103

## 表紙の言葉

この絵は、利尻、礼文に父親との和解登山をした人の物語で以前、連載の「木陰の物語」に描いた。それを2019年の東日本家族応援プロジェクトマンガ展用にパネルに製作した。

九年目の今年も、むつ市図書館で幕開けだったが、このパネル作品を見て、「私も、ほぼ同じ経験をしていて…」と語ってくれた人がいた。父親と成人した娘の関係の記憶である。

よく、父親が娘の交際相手が気に入らないとか、結婚の挨拶に来たら、怒鳴りつけたやるとか、紋切り型なことを言う人があるが、それは父親の一部に過ぎない。

家族も人も、本当に面白い。

思いついて、大阪空港～利尻空港の乗り継ぎ航空券をエアトリでチェックしてみた。すると、去年滞在したパリ往復の航空券の方が安かった。利尻空港って凄く遠いと云うより、すごく高くつくところなのだね。

(2019/09/15)